

INFORMATION



ウトナイ湖 野生鳥獣保護センター



- 開館時間: AM9:00~PM5:00
- 閉館日: 毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)
年末年始(12月29日~1月3日)
- 入館料: 無料
- 住所: 〒059-1365 北海道苫小牧市字植苗156-26
- TEL: (0144)58-2231 FAX: (0144)51-8600



ホームページ



Facebook



Instagram



X(旧Twitter)

マナーを守って、自然や動物観察を楽しみましょう。

自然観察路を含む鳥獣保護区内は、野生鳥獣の重要な生息地として法律により保護されています。以下のマナーを守り、自然や動物観察を楽しみましょう。

営巣を阻害する撮影・録音は禁止
Do not shoot or record in a manner that interferes with nest building

捨てるな
Do not throw rubbish

動物を獲らないでください
No hunting or fishing

植物を採らないでください
Do not pick any wildplants

野生動物に餌を与えないでください
Do not feed any wild animals

焚火禁止
No lighting fires

敷地内禁煙
No smoking

自動車バイク等乗入れ規制区域
All motor vehicles prohibited area

モーターボート等の乗り入れ規制区域
Motorboats prohibited area

ペットの持ち込みはご遠慮ください(駐車場内のみ可)
No pets

器具を使用したスポーツはしないで下さい
Do not play any sports using equipment

ドローン飛行禁止
Drones prohibited

ウトナイ湖 野生鳥獣保護センター

国指定鳥獣保護区／ラムサール条約湿地



写真提供: 尚志方写真工芸社

ようこそウトナイ湖へ

ウトナイ湖は周囲約9km、面積275ha、平均水深0.6mの淡水の湖(海跡湖)です。

およそ6000年前、苫小牧付近の海面は3m高く、勇払原野一帯は海の一部でした。その後、長い年月を掛け、海流や河川に運ばれた砂が少しずつ蓄積し、さらに地球全体の海面が下がったため、勇払原野一帯は広い砂浜となりました。やがて砂浜には草が生えて原野となり、そこに美々川から注ぐ水が溜まりウトナイ湖となりました。

ウトナイ湖 保全の取り組み

- **ウトナイ湖サンクチュアリ**……………1981年(昭和56年)
日本野鳥の会は、ウトナイ湖を「サンクチュアリ」(野鳥の聖域)の第1号とし、自然保護や環境教育の拠点となる中心施設「ネイチャーセンター」を開設しました。
- **国指定鳥獣保護区(特別保護地区)**……………1982年(昭和57年)
鳥獣保護区では野生鳥獣の捕獲を禁止するなど、鳥獣とその生息地を保護しています。
- **ラムサール条約湿地**……………1991年(平成3年)
ラムサール条約は、国際的に重要な湿地とそこに生息する動植物の保全を目的として定められている条約で、ウトナイ湖は水鳥の重要な中継地として日本で4番目に登録されました。
- **東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワーク(ガンカモ類)**……………2006年(平成18年)
渡り鳥にとって国際的に重要な生息地をネットワークで結び、連携しながら生息環境の保全に取り組んでいます。



ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 館内案内

本センターは2002年(平成14年)に環境省により設置され、北海道地方環境事務所と苫小牧市で共同管理しています。展示ホールでは多くの展示や映像によって、ウトナイ湖の自然を分かりやすく解説しています。また、団体利用時には専用プログラムも用意しており、職員による自然解説でウトナイ湖の自然を学ぶことができます。



渡りの時期には大型望遠鏡を使って湖で休むマガンやハクチョウを観察、冬には対岸の枝にとまるオジロワシやオオワシの姿も観察される



2階から、渡り鳥と同じ目線で見るとウトナイ湖



ウトナイ湖のイメージのウェルカムムービーでお迎えます



壁面に描かれたウトナイ湖の四季の展示を見ると、普段は気づかない生きものの生態を垣間見られる



ウトナイ湖の四季を紹介するビデオを大型スクリーンで上映(上映希望の方はお気軽にお声かけください)

活動紹介

観察会



四季折々のウトナイ湖の自然を楽しみながら季節ごとの野鳥や花などを観察します。



特に、春と秋は渡り鳥の中継地でもあり水鳥たちが多く訪れます。



観察会のお手伝いや、自然情報収集と提供、環境美化活動などのボランティア活動を行っています。(ボランティア体験講座を実施しています。)

環境教育



市内小学生を対象に行っている出前講座“傷病鳥獣に学ぶこころの授業”。



市民を対象に“野生動物に学ぶ救護セミナー”を開催。



館内でクイズを解きながらウトナイ湖の自然を学ぶ。

この他にも、水鳥のカウント調査、外来種駆除などの保全活動や広報紙の発行による情報発信などの活動を行っています。

傷病鳥獣の救護活動

救護施設ではウトナイ湖および鳥獣保護区周辺で保護された傷病鳥獣の救護活動を行っています。※一般公開はしていません。

搬入された傷病鳥獣の診察・治療などを行う治療室



野生復帰に向け、傷病鳥獣が飛翔訓練などを行う屋外のリハビリケージ



多くの傷病鳥獣が主に人為的要因(衝突や誤飲事故など)により保護されている。

2階 市民ギャラリー

写真展や絵画展などを開催(無料でご利用になれます)。



館内にはここでみることのできる鳥たちの剥製を展示しています

ウトナイ湖の四季と鳥たち

春 Spring

湖面の氷がとけ始めると、本州以南で越冬していたガン類やカモ類、ハクチョウ類など多くの水鳥たちが続々と渡ってきます。4月中旬になると、繁殖のために極東ロシアに向かって飛び去ります。草原や林では、小鳥たちが子育ての準備を始めています。



アカゲラ 通年
Great spotted woodpecker
後頭部とお腹が赤い、キョツキョツと鳴き声が林内に響いています。



エナガ 通年
Long-tailed tit
丸味のある体に、黒く細長い尾でとってもチャーミング。



シジュウカラ 通年
Great tit
黒い頭に白いほほ、胸には黒いネクタイでオシャレにキメています。



ハシブトガラ 通年
Marsh tit
黒い頭にグレーの背中、コガラとそっくりなので間違わないでね。

夏 Summer

岸边にはズミの花が咲き、小鳥たちは子育てに大忙しです。7月～8月にはホザキシモツケの花が満開になり、観察路をピンク色に染めます。湖に水鳥の姿は少なくなりますが、浅瀬ではサギ類が魚を狙っている姿を観察できます。



アカハラ 春・夏
Brown-headed thrush
赤茶色の脇、ヒヨロンヒヨロンと朝早くから鳴いています。



センダイムシクイ 春・夏
Eastern crowned willow warbler
うぐいす色の体、ジュビージュビーと聞こえたら林内を見わけて。



ベニマシコ 春・夏
Long-tailed rosefinch
尾は長く、嘴が丸く小さい。オスは全体的に紅紫色を帯び、メスは全体的に明るい胡桃色。



カワセミ 春・夏
Common kingfisher
光沢のある青緑色で、体上面中央を縦に走るコバルトブルーがよく目立ち、長くくちばし特徴。

秋 Autumn

繁殖を終えた水鳥たちが幼鳥を連れて再びウトナイ湖へやってきます。まずはカモ類、次にヒシクイやマガン、続いてコハクチョウ、オオハクチョウが飛来し、湖で一時的の休息を得ます。草原では、エゾリンドウの青紫色の花が咲き、林内ではシマリスなどの小動物が冬支度に忙しく走り回っています。



マガン 春・秋
Greater white-fronted goose
ピンクのくちばしにオレンジ色の足、おでこが白く、成鳥のお腹はシマシマ。



コハクチョウ 春・秋
Tundra swan
真っ白な体に黄色と黒のくちばし、オオハクチョウよりも少し小柄。



ヒシクイ 春・秋
Bean goose
くちばしの先と足がオレンジ色、ヒシの実などを食べます。



ツグミ 秋～春
Dusky thrush
白い眉斑(まゆ)がりりりして、お腹と脇のウロコ模様シブイ。

冬 Winter

湖はほぼ全面が氷に閉ざされ、わずかに空いている湖面には少数のカモ類やオオハクチョウ、オオワシやオジロワシが厳しい寒さの中越冬します。

小鳥たちは多くが南下し、林内からはカラ類などの声が聞こえるのみで、静寂の世界が訪れます。



マヒワ 秋～春
Eurasian siskin
スズメよりずっと小さい小鳥。全体がほぼ黄色に見えます。



オオハクチョウ 秋～春
Whooper swan
真っ白な体に黄色と黒のくちばし。コーコーと鳴き大空を飛んでいます。



オオワシ 秋～春
Steller's sea eagle
翼をひろげると2mにもなる。成鳥は肩、尾、おでこが白く、くちばしが黄色い。



ヒドリガモ 冬
Eurasian wigeon
頭頂部が金色のモヒカンスタイル。くちばしは青灰色で先端が黒い。

ウトナイ湖自然観察路MAP

Lake Utonai nature observation road map

どんな生き物がいるのかな

湖では羽を休めるカモ類やハクチョウ類、林内では小鳥や小動物が食べものを探して動き回っている様子を観察できます。
真冬にはオオワシやオジロワシが凍った湖の上にたがずんでいます。

自然観察の準備

- 歩きやすく汚れてもかまわない服と靴
- 夏は汗ふきタオル、冬は防寒着
- 虫や日焼け対策の帽子
- 双眼鏡、野鳥や草花の図鑑

冬毛が白い理由は雪の色と同化し目立たないようにするため。こうして捕食者から身を守っている。

春のウトナイ湖で真っ先に咲く黄色い花。

カナヘビはひなたぼっこが大好き。



ラムートくん



野生鳥獣保護センター



コハクチョウ



オオハクチョウ



ミコアイサ 秋～春



オジロワシ

くちばしの黄色い部分が大きい方がオオハクチョウ。

対岸の枝や氷の上にたたずむ姿が輝伴。

おすすめ観察ポイント



あずまや

階段のベンチハンノキのテラス

マガンのテラス



インシギのテラス



草原の観察小屋

- バリアフリー自然観察路
- 自然観察路
- 1分 ●●● 所要時間
- P 駐車場 i インフォメーション

至勇払川

至美々川